

対象類型

ものづくり技術

業 種

職別工事業

事業計画名

高性能「鉄筋自動曲装置」の導入による受注獲得と技能承継で、大分県を代表する鉄筋工を目指す!!

有限会社吉岡鉄筋工業



新しい鉄筋自動曲装置の導入により高強度かつ鉄筋径の大きい鉄筋にも対応が可能となり、一度に曲げる本数も増加したので効率性も高まった



操作性が高まり、未経験者でも簡単に作業ができる仕様となっている



吉岡 幸雄 代表取締役

会社名 有限会社吉岡鉄筋工業
 代表者 代表取締役 吉岡 幸雄
 所在地 〒870-0319 大分県大分市大分流通業務団地1丁目2番5号
 TEL.097-524-7107 FAX.097-524-7108
 事業内容 鉄筋工事請負業、土木建築工事用鉄筋加工
 資本金 300万円
 設立 2004年10月13日
 社員数 38名

profile
企業情報



background
背景・経緯

安全面に対するニーズに対応できる設備と人材を

景気拡大の一翼を担ってきた土木・建設業界であるが、昨今は地震や水害等の災害対策を考慮した安全面に対する要求が高くなっている。建造物の安全性を左右する鉄筋工事業者にとって、建造物の倒壊や歪みを最小限に防ぎ、耐久性を高めるための取り組みは必須事項であり、なかでも耐震性対策は最大の課題である。

これに対し、従来は多量の鉄筋を使用する解決法が採用されてきたが、柱や梁の断面が大きくなりすぎてしまい、高層建造物には適さない点が指摘されてきた。そこで近年は、高強度かつ鉄筋径が太い鉄筋を使用するケースが増えており、こういった鉄筋素材をどこまで扱えるかが受注獲得の鍵を握ると言われはじめた。

2004年創業の有限会社吉岡鉄筋工業は、大分市で鉄筋の切断・曲げ加工から組み立て工事までを一貫して行う業者である。吉岡幸雄代表取締役は、自らが業界で30年を超えるキャリアを持つ鉄筋職人であり、その堅実な仕事ぶりや磨き抜かれた技術力が認められ、地道に取引先を開拓してきた。現在は地場建設会社からの受注を中心に、公共建築物、民間ビル、マンション、橋梁等の鉄筋工事を受注するまでになっている。

業容は順調に推移してきた同社ではあるが、難度の高い工事の場合、設備や人材面を考慮して県外業者へ外注、もしくは受注が流れてしまい、涙を飲む場面も多々あったという。これは同社に限らず県内の同業他社も同じような経験をしてきており、業界のレベルアップも考慮すると、高強度鉄筋加工の内製化は喫緊の課題となっている。



details
事業内容

高強度鉄筋の曲げ加工を可能にする新設備の導入

上記課題に対する吉岡鉄筋工業の解決策として、高強度鉄筋の曲げ加工に対応した鉄筋自動曲装置の導入を、本事業を通じて取り組むことにした。

鉄筋の強度を示すJIS基準で、もっとも高強度が「SD490」であるが、昨今はこのレベルの発注が増加傾向にある。同社所有の既存設備でも対応は可能だが、作業スピードが遅いため少数しか対応できず、取引先も県外業者へ発注せざるを得ない状況が続いていたという。

今回導入する装置は「SD490」での曲げ作業が可能でスペックを有しており、さらに高強度の「KSS785」にも対応している。同時曲げ加工本数も増加するため、作業効率化にも貢献し、大幅な生産性の向上が期待できると判断し、導入に踏み切った。

同時に人手不足解消と人材育成にも視点を置いた事業として、同社は位置付けた。



achievement
成果

生産性向上と作業効率化を人材育成へ

本事業により、同社の生産力は約1.6倍と飛躍的に向上した。

また新設備は操作パネルが中央に設置されているため移動ロスが少なく、これが稼働率を高めることにつながった。さらに寸法・角度ともにNC制御であり、本数カウント装置、チャッキング装置も装備され、安全かつ高品質な生産を実現した。

これら一連の特徴の最たるものは、操作が容易な点である。そのため未経験者・高齢者・女性にも可能な作業であり、人手不足の解消にも結びついた。さらにその余力を、在籍する若手技能者の育成にも充当できる体制が整備されたのも、大きな収穫である。



future
展望

競争力を強化し、業界をリードする存在へ

大分県内で「SD490」以上の鉄筋工事を扱える設備を有する同業者は少なく（2020年末の時点で3社程度）、本事業は他社との差別化に大きく貢献した。東日本大震災復興ならびに東京オリンピック需要が落ち着き、コロナ禍の影響で建設需要の将来が危ぶまれるなか、企業間競争は増すと予測され、同社としては技術力と提案力の強化を最重要課題にあげている。

若手育成と技能承継にも力点を置きながら、その存在感を増していくことで、県内鉄筋業界を牽引していく存在になりたいとの意向である。

Point

業界を取り巻く環境が変化していくなか、競争力強化と将来の担い手の育成に努めることで企業力を高め、ネクストステージへ挑戦。